

# 教育研究業績書

2023年05月08日

所属：言語文化研究所

資格：助教

氏名：岸本 千秋

研究分野	研究内容のキーワード
日本語学, 社会言語学	計量的研究, メディアのことば, 言語意識
学位	最終学歴
博士(文学), 文学修士	大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 日本語(読解と表現)	2006年4月2007年7月	日本語学の基礎的能力を学び意見文を作成することを目指す。(兵庫大学)
2. 文章表現の基礎	2010年4月2015年7月	日本語の基礎的能力を学び直し三段落ないし四段落の意見文を作成することを目指す。(阪南大学)
3. 文章表現論	2014年4月現在	文章を表現するために必要な能力を獲得することを目指す。自らテーマを考え論説文を作成する。(兵庫県立大学)
4. レポート作成の基礎	2016年4月現在	レポート作成に必要な基礎的能力を学んだ上で、情報収集・分析・レポート作成の実践を行う。(阪南大学)
5. SNSから日本語を見る	2018年4月現在	SNSの言葉とコミュニケーションのあり方に焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知る。その上で、受講生自身がSNSで使用されている言葉(日本語・他言語)を客観的にとらえ、言葉の奥深さを知る。
6. 日本語ライティング	2018年4月2019年3月	文章読解・作成能力を、段階を踏んで養成する。同時に、文章作成に必須となる漢字運用力も習得させる。授業時間で漢字テストや熟語の意味の振り返りを行うことで予習を促す。また、テーマに沿った文章作成を行い、その成果物を相互評価することにより受講生同士の学びあいを促す。
7. 日本語学入門	2018年4月2020年3月	日本語を客観的にとらえるために、日本語学を学習・研究するのに必要な基礎的知識を習得し、日常生活に使う日本語に対する様々な観点を概観する。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 医療コミュニケーション能力を鍛える 文法編	2006年	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキストの作成。現代日本語の文法を中心に執筆。
2. 医療コミュニケーション能力を鍛える 配慮表現編	2006年	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキストの作成。敬語を中心とした待遇表現・配慮表現について執筆。
3. 医療コミュニケーション能力を鍛える 応用編	2006年	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキストの作成。現代日本語によるコミュニケーション・話しことばに関する内容を中心に執筆。
4. 関西弁事典	2018年3月	執筆項目「SNSと関西弁」。SNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)に観察される関西弁の様態について解説した。真田信治監修。ひつじ書房
5. どのようにして研究テーマを見つけたか-日本語学分野で卒論・修論を書く人のために-	2018年12月	大阪大学大学院文学研究科・文学部 現代日本語学教室
6. 大学生のためのレポート作成方法	2022年刊行予定	石井正彦教授還暦記念 学生が卒業論文やレポートを執筆する際に、参考書あるいは手本として役立つ内容である。論理的な論述をいかに行えばよいか、学生の学習支援となる内容を作成することをねらいとした。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 同志社大学経済学部新入生向け基礎講座 講師	2009年4月	講座名「文章の書き方」。新入生を対象に文章作成のために必要な基礎的内容についての授業を行う。
2. 同志社大学経済学部3年生向け講座 講師	2009年12月	講座名「レジユメの作成とプレゼンテーション」。ゼミ演習のためのレジユメ作成の方法、及び、学会発表やゼミ発表などのプレゼンテーション方法についての授業を行う。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 「日本語相談室」相談業務	2017年現在	日本語表現全般について相談を受け付ける業務全般を担当する。論文作成、レポート作成の際に、語彙的、文法的なことを中心に、日本語表現に関する相談への対応を行う。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 中学校・高等学校教諭一種（国語）	1988年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 「授業改善奨励制度」 学長表彰	2019年3月	武庫川女子大学 学長表彰（瀬口学長）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. ネット日記における読み手を意識した表現—公開意識との関連から—	単	2005年09月	ひつじ書房『メディアとことば2』	インターネットに掲載された個人の日記（ネット日記、またはブログと称されるもの）について、表記の特徴を整理した。また、書き手の公開意識の有無によって表記・表現に違いがあるのかについて考察を加えた。pp. 204-231.
2. ニューメディアにおける表記の特徴—インターネットを通して個人が発する情報を例に—	単	2013年06月	韓国外国語大学『日本語学・日本語教育』第5巻（談話編）	インターネット上に掲載される個人が発信する情報のうち、特に、ブログを対象に、その表記・表現の特徴を解説した。そのうえで、今後の展望について考察を加えた。刊行委員長：韓美卿（韓国外国語大学）。pp. 49-64.
2 学位論文				
1. ウェブ日記の文体と表現	単	2006年02月	大阪大学大学院文学研究科	ブログ（ウェブ日記）を言語資料とし、その文体と表現とを計量的に分析することでブログの本質に迫ることを目的としたものである。特に記号類については詳細に分析を行い、文体を表記の観点からとらえることを試みた。
2. ウェブログの計量的文体研究	単	2018年02月	大阪大学大学院文学研究科	ブログの文体とらえるために、表記・表現、書き手の意識の各観点から、計量的な手法によって分析し考察を行ったものである。特にウェブ記号と文、ウェブ記号とことばとの関係に注目し、記号類の出現傾向を明らかにした。
3 学術論文				
1. 女らしさにおける男女の意識差	単	1997年03月	『「女らしさ」の意味・用法・イメージの記述的研究』文部省科学研究費補助金(基礎研究〔C〕) 研究成果報告書平成7年度～平成8年度 研究代表者 佐竹秀雄 研究協力者	「女らしさ」にかかわる事項について、大学生を対象としSD法による意識調査を行った。その結果、男子学生と女子学生とでは、女らしさに対するとらえ方にズレがあることが分かった。男子学生は、控えめでおとなしいといった女らしさを好む傾向にあり、女子学生は、男子学生が好むほどには、控えめであることやおとなしいことに女らしさを感じていないことが明らかになった。
2. インターネットと日記	単	2003年5月	『日本語学』2003年5月号 明治書院	インターネットの日記サイトにおける特徴的な表記・表現について分類、分析を行なった。また、なぜそのような表記・表現が使用されるのかについて考察を加えた。【査読付】
3. ネット日記における公開意識と表現とのかわり	単	2005年3月	『社会言語科学会第15回発表論文集』社会言語科学会	インターネットに公開されている個人の日記に見られる読み手を意識した表現と書き手の意識とをリンクさせて分析を行なった。また、終助詞と記号類との関係について考察を加えた。【査読付】
4. 日本のWeb日記における表現の特徴	単	2005年06月	『日本研究』第24号 韓国外国語大学日本研究所	インターネットの日記サイトにおける特徴的な表記・表現について、日本語のWeb日記の紹介を兼ねて分類、分析を行なった。【査読有】

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
5. ウェブ日記に見られる話しことば的文体	単	2008年4月	『日本語学』2008年4月臨時増刊号 明治書院	ウェブ日記を調査対象とし、品詞・語種・文長・字種の調査結果から、非常に話しことばに近い性質をもつものであることを確認した。また、樺島の法則にウェブ日記のデータを当てはめて、これからも話しことばに近い品詞比率であることを確認した。さらに、パラ言語情報の文字化、記号化がなされていることに言及した。【査読付】
6. ブログの表記と文体	単	2008年11月	『日本語の言語表現とコミュニケーションの研究』韓日コミュニケーション研究会 韓美卿編著 JNC 3章 表記と文体	日本語表記のブログがどのような表記方法をとっているか、また、ブログの文体にはどのような特徴があるかを示した。【査読付】
7. インターネットにおける新語とその周辺	単	2009年11月	『日本語学』2009年11月臨時増刊号 明治書院	おもにインターネットの世界で使用されている新語にはどのようなものがあるかを示した。「一般的な新語」と「専門的な新語」との2種類に分け、それぞれに具体例を挙げながら考察した。【査読付】
8. ウェブログの計量的文体研究—文とウェブ記号の関係を中心に—	単	2017年2月	大阪大学大学院文学研究科日本語学講座『阪大日本語研究』29	ブログの文をウェブ記号の有無によって2種類に分け文を構成する品詞を比較した。その結果、ウェブ記号の有無によって品詞に有意差が認められることを明らかにした。【査読付】
9. ウェブログの計量的文体研究—文末表現とウェブ記号との関係を中心に—	単	2018年2月	大阪大学大学院文学研究科日本語学講座『阪大日本語研究』30	ブログの文をウェブ記号の有無によって2種類に分け、終助詞・接続助詞とウェブ記号との共起関係を比較した。その結果、ウェブ記号と共起する終助詞・接続助詞に一定の傾向が確認されることを明らかにした。【査読付】
10. 書きことばにおけるパラ言語情報と非言語情報—ウェブログを例として—	単	2019年3月	大阪大学文学研究科『現代日本語研究』	ブログの文章の特徴の一つであるウェブ記号が音声情報をも「表記」していることをとらえることを、パラ言語情報、非言語情報の機能や音声要素を参考にして、①声の大・高低、音の強調、イントネーション、アクセント、②感情、気分、③模倣、物真、④笑い、⑤泣き、涙、怒り、⑥その他の6項目から考える。【査読付】
11. SNSの文体をとらえる試み—ブログとTwitterを例に—	単	2022年12月	計量国語学会『計量国語学』33巻7号	ブログとTwitterを対象として文体の特徴を明らかにした。ブログについては、品詞比率、語種比率の結果から、きわめて話しことば的であることを確認した。Twitterについては、品詞比率からは書きことばに近いととらえられるが、これは、字数制限が影響しているとの解釈が妥当であるとした。ウェブ記号が文体にどのような影響を及ぼすかについて、ウェブ記号がある文とない文との品詞比率の差をロジット変換によって再表現した結果、ブログもTwitterも、ウェブ記号がある文は形容動詞・感動詞について、ウェブ記号がない文は、連体詞・接続詞についてより大きく評価された。【査読付】
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. ネット日記作者に対する意識調査報告	単	2003年10月	第3回メディアとことば研究会	インターネットに公開されている個人の日記（ネット日記）の書き手に対してメールによるアンケート調査を行った結果報告。日記をはじめたきっかけ、日記を公開することに対する意識、顔文字などの使用に関する実態・意識などの調査項目について調査・分析を行った。
2. ネット日記における公開意識と表現とのかかわり	単	2005年03月	第15回社会言語科学学会	インターネットに公開されている個人の日記に見られる読み手を意識した表現と書き手の意識とをリンクさせて分析を行なった。また、終助詞と記号類との関係について考察を加えた。ポスター発表。
3. ネット日記文体の計量的分析の試み	共	2005年09月	計量国語学会第四十九回大会	ネット日記の文章を計量的な視点から調査・分析し、その文体的特徴を明らかにすることを試みた。その際、文体を単に文章表現だけでなく表記の観点をも含めてとらえて分析することを中心に述べた。共同発表者：佐竹秀雄。本人担当分：調査・分析・口頭発表。
4. ウェブ日記文体の計量的分析の試み	単	2005年12月	武庫川女子大学言語文化研究所	ウェブ日記がどのような文体的特徴をもち、それがどのような量的構造となって反映されているのかを計量的に調査、分析した。中で

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
5. M&L研究の現状と将来一過去の研究をふまえて	単	2011年09月	メディアとことば研究会	も、特徴的である記号の使われ方をその機能によって分類し、その分類に基づいて使用傾向の分析を行った。つまり、文体を表現の視点からとらえることを試みた。
6. 交渉の言語術3：恋愛の場合—コミック『あすなろ白書』を資料として—	単	2013年01月	ひと・ことばフォーラム	メディアを扱った研究（特に「メディアとことば研究会」における口頭発表）を対象に、どういった研究分野・研究方法がなされているかについて分類・分析を行った。
7. 交渉の言語術4 恋愛の場合—コミック『あすなろ白書』を資料として—	単	2013年03月	ひと・ことばフォーラム	恋愛コミックを対象に、登場人物の会話から、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて整理した。
8. 交渉の言語術5：恋愛の場合—コミック『あすなろ白書』を資料として—	単	2013年05月	ひと・ことばフォーラム	恋愛コミックを対象に、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて計量的な手法により、整理し、考察を加えた。
9. 慣用表現にみられる意味・用法の変化	共	2015年03月	ひと・ことばフォーラム特別公開研究会	いわゆる誤用とされる慣用句の用法についてアンケート調査を行った結果の報告。共同発表者：佐竹秀雄。本人担当分：調査・分析・口頭発表。
10. ブログにおける文と記号との関係	単	2016年09月	ひと・ことばフォーラム	ブログの文章を文単位にし、それぞれの文をウェブ記号の付加の有無によって分類し、文を構成する品詞を比較した。その結果、ウェブ記号の有無によって品詞に有意差が認められることを明らかにした。
11. ウェブログの計量的文体研究—文末表現とウェブ記号との関係—	単	2017年09月	阪大日本語学研究会	ブログの文末表現とウェブ記号との共起関係を計量的に調査し、特定の文末表現にはウェブ記号が有意に共起することを明らかにした。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 悪文のバタンと出現メカニズム	共	1994年03月	武庫川女子大学言語文化研究所	分担執筆：佐竹秀雄／岸本千秋 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。広報紙の文章をデータとし、いわゆる悪文について分類・分析を行ない、その出現が書き手中心に述べられているためにおこるものであることを模式的に示した。
2. 女から見た女のことわざ	単	1995年03月	武庫川女子大学言語文化研究所	女について言及していることわざを取り上げ、女子大生を対象としてアンケート調査による意識調査を行った。結果、女らしさに対して、昔ながらの意識をもつ学生も少なからず存在することが明らかになった。
3. 女子大生の漢字意識	単	1997年05月	武庫川女子大学言語文化研究所	漢字を使用することについて、女子大生を対象にしてアンケート調査による意識調査を行った。結果、漢字を好み漢字についての豊富な知識を持ちたいと考えている学生が多いことが明らかになった。
4. 女子大生の敬語意識	単	1998年06月	武庫川女子大学言語文化研究所	敬語の使用について、女子大生を対象としてアンケート調査による意識調査を行った。結果、レル敬語が好まれて使用されるなどの点が明らかになった。
5. 新聞第一面の語彙—1997年の新聞3紙を資料として—	共	1999年07月	武庫川女子大学言語文化研究所	分担執筆：佐竹秀雄／岸本千秋 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。朝日、毎日、読売の新聞3紙の第一面について、1997年の1年間、毎日5文ずつを無作為抽出し、そのデータにもとづき語彙調査を行った。頻度集計、語種調査の結果を示し、第一面における漢語使用率の高さを指摘した。
6. 新聞社会面の語彙	単	2000年07月	武庫川女子大学言語文化研究所	朝日、毎日、読売の新聞3紙の社会面について、1998年の1年間、毎日5文ずつを無作為抽出し、そのデータにもとづき語彙調査を行った。また、月別にどのような語が特徴的に現れるのかについて抽出、分析した。その結果世間を騒がせた事件、事故に対応する語が抽出された。
7. インターネットの日	単	2001年07月	武庫川女子大学言語文化研究所	インターネットに日記サイトにおける特徴的な表記について分類、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
記サイトにおける表記の特徴			語文化研究所	分析した。特にカッコの中に文字を入れて表現しているいるカッコつき文字（（爆）など）についてパターン化した。
8. 洋服を表す外来語の一特徴	単	2002年12月	武庫川女子大学言語文化研究所	女性向けファッション雑誌をデータとし、語彙調査を行った。特に外来語については、取り入れられた時代別によって分析を行ない、明治、大正時代に取り入れられた語が基本的な語彙として使用されていることを明らかにした。
9. ネット日記作者の言語行動と言語意識—アンケート調査の結果から—	単	2003年12月	武庫川女子大学言語文化研究所	インターネットに公開されている個人の日記（ネット日記）の書き手に対してメールによるアンケート調査を行った。その結果、公開することに積極的な書き手とそうではない書き手との2種類が存在することが明らかになった。
10. ウェブ日記文体の計量的分析の試み	単	2005年12月	武庫川女子大学言語文化研究所	ウェブ日記がどのような文体的特徴をもち、それがどのような量的構造となって反映されているのかを計量的に調査、分析した。中でも、特徴的である記号の使われ方をその機能によって分類し、その分類に基づいて使用傾向の分析を行った。つまり、文体を表現の視点からとらえることを試みた。
11. ウェブ日記文体の計量的分析の試み 2	単	2006年12月	武庫川女子大学言語文化研究所	ウェブ日記の文体について、特に記号の有無を中心に考察を行った。文のみで表されたものと、記号を付加して表されたものとは、その文長に違いが認められた。このことから書き手が記号に意味を込めていると推測した。
12. 新聞社会面・地域面の語彙—2002年の新聞3紙を資料として—	単	2008年02月	武庫川女子大学言語文化研究所	2002年発行の朝日・毎日・読売の3紙、それぞれの社会面と地域面のデータを対象に語彙調査を行った。地域面（阪神版）には、地域面ならではの方言などもみられることを示した。
13. 「食べ物」に関することばの時間的変化—アンケート調査の結果から—	単	2009年10月	武庫川女子大学言語文化研究所	おもに関西で使用される食べ物に関することばを取り上げてアンケート調査をした結果である。年代別の調査結果からは、昔ながらの呼び方が消え、標準語に取って替わられるものが複数あることを明らかにした。
14. 恋愛における交渉ストラテジー	単	2014年03月	武庫川女子大学言語文化研究所	恋愛コミックを対象に、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型について整理し、考察を加えた。
15. ブログにおける注釈とパラ言語	単	2015年12月	言語文化研究所シンポジウム「言語文化の諸相—注釈、翻訳、翻訳語—」	ブログの文章には記号類が多用されており、それらが注釈やパラ言語の役割を担っていることを解説した。
16. 人気ブログのタイトルに見られる工夫	単	2017年02月	武庫川女子大学特別学期公開講座「ネーミングのことば学」	ブログタイトルがいかに読まれることを目的として付けられているかを分析した。
17. ニックネームの名付け	単	2018年03月	武庫川女子大学言語文化研究所年報28	自己・他者のニックネームに関する大学生への意識調査である。アンケート調査を行い、ニックネームの名付けパターン、命名者などについてまとめた。
18. 文章表現とSNS	単	2018年12月	大学間教育研究連携プロジェクト 2018年度言語文化研究所フォーラム	「大学間教育研究連携」を推進する活動の一環としてのプロジェクトである。「言語文化研究所フォーラム」において、「綴り方教育と言語文化」のテーマで発表。
19. ニックネームの名付け2	単	2019年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報29	自己・他者のニックネームに関する大学生への意識調査である。アンケート調査を行い、ニックネームの名付けパターン、命名者などについてまとめた。
20. 大学生が LINE で連絡するとき、しないとき—「お礼」と「謝罪」の場合—	単	2019年7月	「LCりぼーと45」 武庫川女子大学言語文化研究所	スマホネイティブの大学生にとって、LINEで伝えることと伝えないことの境目はどこにあるのかを明らかにするため、場面、相手による使い分けの実態を報告した。
21. 大学生の文章表現に対する意識	単	2019年12月	大学間教育研究連携プロジェクト 2019年度言語文化研究所フォーラム	言語文化研究所と神戸大学との「大学間教育研究連携プロジェクト」（綴り方教育と言語文化）の一環として開催されたフォーラムにてコメンテーターとして登壇した。テーマ「言語教育と言語文化—ことばを綴るとは？」
22. ニックネームの付け方・付けられ方	単	2020年2月	言語文化研究所シンポジウム「ネー	「生活と社会との関わりにおいて」の部において登壇し、大学生のニックネームについて、パターン分類を行った途中結果を発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
23. ニックネームの諸相	単	2020年3月	ミンクの言語文化 武庫川女子大学言語文化研究所年報30	大学生を対象としたアンケート調査により、ニックネームのパターン化を行ったほか、命名動機、命名方法等の分類を行った。
24. コロナが変えたSNS —大学生のLINE 使用は新型コロナウイルスでどう変わったか—	単	2020年10月	「LCりぽーと46」 武庫川女子大学言語文化研究所	大学生のSNSがコロナによってどのように変化したのかを視点に、LINE使用の頻度、相手、内容、その実態と意識を報告した。
25. SNSに見る大学生の言語行動 [1] —依頼・感謝・謝罪・連絡・忠告・相談・告白—	単	2021年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報31	LINE使用の場面を複数設定し、大学生がLINE使用に戸惑いをもつか否かについての調査結果である。デジタルネイティブ世代の大学生が、依頼・感謝・謝罪・連絡・忠告・相談・告白など、日常的なやり取りをどうとらえているのかを明らかにした。
26. SNSと関西方言 —大学生の方言使用実態とその意識—	単	2021年3月	「LCりぽーと47」 武庫川女子大学言語文化研究所	SNSにおけるコミュニケーションの中で、方言を「意識的に使うこと」、また「意識的に使わないこと」があるのか、ないのか、それはどのような場面なのか、そして、その理由は何なのかについて報告した。
27. オンライン授業の地平—2020年度の実践報告—	単	2021年4月	雷音学術出版	コロナ禍の中で遠隔授業をどのように実践したかその様態・実態を記録し、事後的に教育の全体像を検証することを目的としている。本学の担当授業について述べている。
28. LINE 会話の終わり方・抜け方 —大学生はどのように LINE での会話を終わらせているか—	単	2021年10月	「LCりぽーと48」 武庫川女子大学言語文化研究所	LINE会話のやめ時に気を遣っているのかどうか、また、LINE会話をやめる時にはどのような方法が多く用いられているのかについて、大学生の実態と意識を報告した。
29. 言語文化と言語教育 —文章読本を考える—		2021年12月25日	大学間教育研究連携プロジェクト 2021年度言語文化研究所フォーラム	コメンテーターとして登壇した。大学生が文章作成にどのような意識をもっているかをテキストマイニングの手法で解析し「読書感想文」への拒否感が大きいことを示した。
30. SNSに見る大学生の言語行動 [2] —方言の意識的な使用と不使用—	単	2022年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報32	大学生のLINE使用における方言の使用意識と（非）使用意識、またその使用実態について明らかにした。
31. 消えるか、残るか、食べ物と言葉	単	2022年3月12日	言語文化研究所シンポジウム	「食」に関する、おもに関西地方で使用される言語形式について、アンケート調査を行った結果を報告した。視点は、標準語に置き換わることにより、関西の方言形式が消えそうになっているのか、あるいは、残っているのかを中心とした。
32. ニックネームの類型	単	2022年10月	武庫川女子大学言語文化研究所研究叢書1 —武庫川学院創立80周年記念論文集—	ニックネームがどのような語構成となっているのか、その類型について考察を行った。ニックネームの形について大きく4タイプに分け、その下位として12種類に分類を行い考察を加えた。補論として「ブログにおける注釈」を追加している。ネーミングという営みの場における基本的構造としての理論にメタ的な意識が働いている可能性があるという指摘に基づいて考察をした。
33. コロナ禍における「学長メッセージ」の分析—KHCoderを用いて—	単	2023年3月刊行予定	武庫川女子大学言語文化研究所年報33	日本の大学全27校の、コロナ禍における「学長メッセージ」を分析対象とし、学生に向けての励ましやお願い、注意喚起を行う際に、どのような言葉が用いられたのか、特徴的な語句は何かを、テキストマイニングの方法を用い分析を行った。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 1998年2017年	日本語しことば検定
2. 1998年2017年	アナウンス検定
3. 2006年2009年	日本語文章能力検定
4. 2011年～現在	文章読解・作成能力検定
5. 2012年～現在	ひと・ことばフォーラム事務局

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
6. 2019年12月2020年12月	神戸新聞読者モニター